

平成 23 年度第 2 回下水道クイックプロジェクト推進委員会  
指摘事項に対する報告（極小規模処理施設）

項目	委員会指摘事項	対応
極小規模 処理施設	<p>・二戸市の膜の洗浄は定期的に行っているのか。その頻度は。 （高橋委員）</p>	<p>二戸市の維持管理状況を以下に示す。 膜引き上げ点検と膜の付着汚泥除去 年 2 回 薬液洗浄（次亜塩素酸ナトリウム） H24 年度（4～10 月） 約 10 回実施 膜差圧 約 25kpa 程度を目安 か 1 ヶ月に 1 回程度を目安 貯留槽汚泥引抜き（移送処分）実施履歴 平成 24 年 10 月 2 日に、供用後初めて、 反応槽から二戸浄化センターへの 汚泥移送を実施（68m<sup>3</sup>）（事務局）</p>
	<p>・寒冷地における断熱対策として、地中設置は維持管理の面でプラスではないものと考えられる。断熱材等での対応も考えられるのではないかと。（藤田委員）</p>	<p>応急仮設住宅向けの寒冷地対応として、地中埋設以外ではウレタンフォーム吹き付けと、半地下埋設＋盛土の事例がある。前者は耐候性が明確でないことや施工の手間もかかることから、次第に後者が増えている。</p>
	<p>・今後の社会情勢に合わせた機動的な対応と言う面では、全体として地中設置より良い方法があるのではないかと。（藤田委員）</p>	<p>以上の施工形態について、技術評価書に参考記載する。（事務局）</p>
	<p>・接触酸化型と膜分離型を一つの括りで評価して良いか。例えば、適用場所についても、放流先の違いで採用処理方法が異なってくることも考えられる。（長岡委員）</p>	<p>接触酸化型と膜分離型について、維持管理作業や課題が個別に存在するために、別々に評価する。今年度は、流入率が 1 / 2 を越えた施設が苫前町の 1 例であることから、今回の評価対象を接触酸化型に限定する。（事務局）</p>
	<p>・臭気対策について、汚泥貯留施設の配置や敷地境界からの隔離、汚泥引き抜き作業時間帯の配慮とあるが、もう少し技術的な面での対応できないか。（小崎委員）</p>	<p>・水処理に起因する臭気対策としては、排気管（臭突管）による大気拡散が主となるが、特に対策が必要な場合は活性炭吸着や土壌脱臭等の適用を考慮すること、と記載する。 ・汚泥引き抜き作業時には、外部に臭気が漏れない施設の設置等が考えられるが費用が増加する。（事務局）</p>

項目	委員会指摘事項	対応
極小規模 処理施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来工法における何かを犠牲にしてコスト削減が図られているものと考えられる。技術評価書においては、何を犠牲にしているか（トレードオフしているか）も示した方が良い。（田中委員）</li> </ul>	<p>本技術では、一般的な下水処理施設と比較して簡素化しコストが下げられている。</p> <p>しかしながら、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能を制限し建設費の低減を図る一方で、維持管理における作業員の知識や経験に依存してしまうきらいがある。</li> <li>・材質についてはコンクリートや SUS 等とは耐久性等が異なる。</li> <li>・工場製作であるため仕様の拡張性が低い。</li> </ul> <p>等を留意事項として技術評価書に記載する。（事務局）</p>